（参考様式３）

会　　議　　録

<table>
<tr><td>会議の名称</td><td colspan="5">令和４年度第２回東村山市立図書館協議会</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="5">令和４年 12 月 19 日（月）午前 10 時～正午</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td colspan="5">市民センター　第６会議室</td></tr>
<tr><td>出席者
及び欠席者</td><td colspan="5">●出席者：
（委　　員）大谷憲司委員・岩波正広委員・竹澤廣介委員・鶴田良平委員・石河聡子委員・徳永靖子委員・堀渡委員・黒尾和久委員、宮川健郎委員
（市事務局）新倉図書館長・野口館長補佐
●欠席者：無し</td></tr>
<tr><td>傍聴の可否</td><td>傍聴可能</td><td>傍聴不可の場合はその理由</td><td></td><td>傍聴者数</td><td>無</td></tr>
<tr><td>会議次第</td><td colspan="5">１．　報告
（１）　令和４年度事業報告
（２）　９月議会
（３）　公共施設再生「ディスカッションペーパー」について
（４）　その他
２．　報告　ひがしむらやま電子図書館について</td></tr>
<tr><td>配布資料</td><td colspan="5">配布資料
１．　令和４年度第２回図書館協議会次第
２．　令和４年度第２回東村山市立図書館協議会報告資料
３．　公共施設再生ディスカッションペーパー
４．　令和４年度東京都多摩地域公立図書館大会開催要領</td></tr>
<tr><td>問い合わせ先</td><td colspan="5">事務局　東村山市立中央図書館
担当者名　野口
電話番号　042-394-2900
ＦＡＸ番号　042-394-4107</td></tr>
</table>

会　議　経　過
●今回は図書館からの事業報告とひがしむらやま電子図書館についての説明が中心テーマとなる。委員それぞれの知見を所属団体の事情を踏まえてご意見をいただきたい。 １．　報告 （1）令和４年度事業報告 （事務局）引き続き新型コロナウイルスの影響下にあるものの定員を減らすなど工夫をしながら行事を再開している。受け入れを従来の定員の半分程度にしているため恒例行事はすぐに申込上限に達する状況にある。 　子ども向け行事では夏休み期間に「本っていいな　書いてみよう。あなたの好きなこと」と題して好きな本について紹介文や絵など自由に書いてもらった。小学校の中には夏休みの宿題として取り組んでいただき、最寄りの図書館で掲示を行ったクラスもある。 　大人のためのプレミアム紙芝居を共催した紙芝居サークル「原っぱ」は、教育委員会として取り組んでいる「いのちとこころの教育週間」でも上演を行っていただく予定である。 　廻田図書館が入っている廻田文化センターが開館 30 周年を迎え、11 月 23 日に記念講演会「下宅部遺跡から見た縄文人の技」を行った。熱心な参加者が多く、聴講者の満足度は高かった。 　東村山製本研究会と共催の豆本作り教室とブックカバーづくりはどちらもすぐに定員になり申し込みをお断りする状況だった。 　12 月 20 日からは冬休みお楽しみパックを行う。タイトルが見えないように包装した本に興味をもってもらうテーマを表示して貸し出しを行うもので、この時期の恒例行事として好評いただいている。 （2）９月議会 （事務局）図書館の年代ごとの利用率や、開始前だったがひがしむらやま電子図書館について、や選書の判断基準などについての質問をいただいた。 ●事業報告はイベント報告となっているように感じた。ここまでの館運営や利用状況についてなども聞きたい。 （事務局）今年度は新型コロナによる臨時休館はせずに運営している。利用は平年並みに戻りつつある。閲覧席は増やしているがコロナ以前ほどには戻せていない。再開している行事については以前は事前申し込みが不要だったものも申込制にして人数のコントロールをしている。視覚障害者向けの対面朗読は利用者側の意向で再開していない方もいるが図書館としては行っている。新規の申し込みもあった。 　貸出利用状況は令和 3，4 年の夏とを比較したところ今年度は微減であった。これは去年までは行動制限があり近場の施設に子ども連れで来ていたものが、行動制限が撤廃され選択肢が広がったためと分析している。図書館利用方法として事前に予約をしておいて借りてすぐに帰る形が定着している。9 月 30 日にひがしむらやま電子図書館を開始したがこれを利用するために新規登録をする方が多い。高齢者や障害のある方からの問い合わせがあった。

●感染拡大が続いているときに「すばやくえらんでゆっくりおうちで（読もう）」とキャンペーンをしていたが、今後は、検索をしてピンポイントで資料に当たるだけでなく館内で書架を巡りながら思わぬ本との出会いをしてほしいとのメッセージに切り替える時期ではないか。

（事務局）子ども関連施設への読み聞かせボランティア派遣を再開しているが、施設側が慎重になっている。日本図書館協会が 12 月 1 日にガイドラインを改訂した。手指の消毒をしっかりすることを前提に設備消毒の簡略化やソーシャルディスタンスのためのマーカーを不要とすることなどが記載されている。図書館としても平常に戻していきたいが、直近の情勢では学校での感染が増加しており教育委員会として緊張感を持っている。

●図書館協議会委員の方たちは利用者、ボランティア活動などの双方の立場で図書館と関わっている。そういった視点からご意見をいただきたい。

●滞在時間短縮キャンペーンについてだが、図書館を深く使う人は自然に長時間滞在になるのではないか。新刊書店と違い、図書館には蔵書の歴史の積み重ねがあるので、作家の過去作品や関連テーマを探すなどすれば短時間滞在では済まないと思う。図書館からそのような利用を呼び掛ける必要がある。子どもに「同じ作者の本を探してみよう」など案内掲示をして、次々に連想して本を借りるよう促したい。

（事務局）児童・ティーンズコーナーでは座席を減らして空いた机上で面展示をしている。朝読書コーナーなどよく借りられているので面見せが有効であることが分かる。席を戻すと置き場がなくなるので今後について担当と相談している。

●国語の教科書が変わってきている。取り上げる教材は限られるがそこから発展で紹介する作品が増えている。

（事務局）図書館では小学生向けに教科書コーナーを設置して紹介されている本を展示している。

●中学の国語の教科書の方が自覚的に関連書に当れるので、そうしたコーナーを設けるとさらに効果的だと思う。

●コロナ禍でネットショップの利用が増えているが、図書館は場を提供する施設としてピンポイントでない利用を促してほしい。

●連想検索の仕掛けがホームページに作れるとよい。ブックトークのように紹介されると楽しい。

●滞在時間が短いことがネガティブなことだとは思っていなかったが、棚の探索の良さも話を聞いてわかってきた。作者名以外で関連書を探すのは難しいように感じる。図書館分類以外での配架では本屋との差別化がしにくくなるし、本を探しにくくなるのではないか。

（事務局）分類以外にはテーマ展示コーナーで対応している。リニューアルした瑞穂町図書館では、従来のＮＤＣ分類（日本十進分類法）ではない配架をしている。ＮＤＣ分類を知っている人には使いにくいが、そうでない利用者には探しやすいと好評な意見もあると聞いている。

●テーマ展示は人権週間など行政と連携して行っているか。

（事務局）年間通して様々なテーマで連携している。例えば 2 月に教育委員会の「いのちとこころの教育週間」では人権について様々な切り口でリストを作成している。他にも男女共同参画や自殺対策などでも行っている。一部のテーマはホームページ上でも資料の案内をしている。

●市役所の他所管や学校などからテーマの公募ができるとよい。

（事務局）テーマの公募はしていないが、随時他所管の意見を聞いて実施している。

●学校などからテーマを提案する形にすると連想力がついていく。

●展示棚の配置は、設計時に大枠が決まってしまい変更が難しいが、区部には展示棚の運用を市民に任せているところがある。中学生に推薦文を書いてもらったりしている。

●書店の「私の本棚」のようなものになるか。

●中学生以上の市民による「棚つくり委員会」を作ってはどうか。

●人が集まる活動は新型コロナの感染源にならないよう注意が必要だが、市内の文庫団体との連携もありか。

●まとめる図書館は大変だが図書館活動に広がりが出る。

（事務局）職場体験に来た中学生などに紹介ＰＯＰを書いてもらい、本とともに展示するコーナーを作っていた。現在は職場体験自体が休止しており、職員が学校に行って仕事について話をしている。中学生自身が紹介した本は同世代によく借りられている。東村山第三中学校の美術の授業でＰＯＰを作成した作品を最寄り館の萩山図書館で展示をしたが、よく利用されている。

●子どもが本の帯を作る活動をしているところがある。

●小学生が絵と文で本を紹介する「大阪こども『本の帯創作コンクール』」を行っている。1 万点くらいの応募がある。新聞社も関わっていて、入賞作品を号外にして渡している。

●市立図書館で展示コーナーを作っているが地味で小さい。地区館で減らした座席の机を使用して新着本を展示しているが展示企画に使ってはどうか。

（事務局）今後減らした座席は元に戻していく予定である。

●公共施設再生について聞きたい。

（事務局）今後の議論の土台となる「公共施設ディスカッションペーパー」を公表した。再生施設に必要な図書館機能についてこの協議会で議論していきたい。

●公共施設の利用回数が載っているが、図書館は多いほうで必要な施設であるといえる。施設数が減ってしまっては再生といえない。

（事務局）（4）その他として各所属団体の活動状況について伺いたい。コロナ禍は続いているが状況は変化していると思う。

●東村山製本研究会は、学校の行事が再開していることもあり親子向けの行事を再開している。募集人数を絞っているため申し込みがすぐに埋まってしまう。イベントへの需要は多い。会員の例会などへの参加率はまだ低い状況である。

●中学校では、保護者のボランティア活動が止まっていることもあり人数が減り新しい人が入ってこない。学校によっては卒業生の保護者に来てもらっているところもある。図書館を閉鎖していた時期もあり、昼休みに来ていた子どもたちが来なくなった。タブレット型端末の貸与もあり行動パターンが変わってしまった。

（事務局）中学校は学校図書館専任司書が週 4 日配置になり開館時間は増えている。

●入学年度ごとのカラーもあるかもしれない。

●視覚障害者向けの対面朗読は再開しているが、利用者側の意識がそれぞれである。高齢者施設では先方の事情で再開できていない。会員向けの講習会は新入会員が増えたため広い会場を使いたいが借りるのが難しい。全体的には平常に戻りつつある。

●小・中学校の図書館ボランティアをしているがコロナ拡大時に活動が途切れて解散状態になっているところがある。中学校は司書が学校ごとに専任配置になり図書館活動はきちんとできている。乳幼児の読み聞かせでは参加者よりボランティアのほうが多いことがある。開催数が減り当番が回ってくる回数が減っている。

●土曜授業の学校公開時に保護者見学のため学校図書館を開けている。多くの来館者があり関心を持ってもらうきっかけになっている。

●おはなし会未経験の小学生が増えているのが残念である。ボランティアが集まりにくくなっているため、学校によっては図書館整備担当をＰＴＡで振り分けて派遣しているところがある。学校側が必要性を認識してくれている。

●状況の変化が続き学校現場では難しい判断を迫られている。タブレット型端末の配備により児童生徒の調べ方が変わり、百科事典利用が減っている印象がある。ボラ

ンティアの読み聞かせを再開したいが、不特定者を校内に入れることにためらいがある。市立図書館で開始した電子図書館への関心が高い。

（事務局）ひがしむらやま電子図書館について説明する。新規の取り組みで電子書籍の貸出冊数などについて、運営規則の改正を行った。貸出数については 2 点までとした。スタート直後でまだコンテンツ数が少ないが、今後を見据えてこの数にした。利用対象者は市内在住・在学・在勤者とした。開始当初はＩＤやパスワードについての問い合わせが多かったが今では落ち着いている。電子図書館を使用するために利用登録をする方が各館でみられた。市の独自資料として、地域についてまとめた「東村山ものしりシート」を 8 種類掲載している。小中学生に周知するため学校だよりなどに記事を載せてもらった。短期間での統計であるが、図書館が閉まっている時間帯にも一定の利用があり、24 時間利用できる電子図書館の利点であると認識している。図書館としては、電子書籍は紙書籍に代わるものではないと考えている。それぞれの良さを活かしてハイブリッドな利用を目指したい。

●資料数はどのくらいか。

（事務局）パッケージ契約で利用できる青空文庫などが 8000 タイトルほどあり、このほかに図書館が独自に選書をしたものが開始時に 150 タイトル、年内にあと 100 タイトルほどの追加を予定している。

●市で高齢者向けのスマホ教室を開催しているが、実践編として電子図書館の使い方をプログラムに入れると新しい利用者の開拓になるのではないか。

（事務局）参考にしたい。

●次回は電子図書館の運用や今後の予算の考え方等について聞きたい。

（事務局）次回は利用実績もう少し積み上がっているので、利用傾向などがもう少し見えてくると思う。

（次回）令和 5 年 3 月予定。